

宮内彩の New Zealand Style no.4

Nom D

10月に行われたNZファッションウィークのラインアップの中でも、ベストコレクションの一つにあげたいのがNomD。中田英寿がNomDのヴィンテージジャケットを愛用しているということで、NomDをご存知の読者も多いだろう。

このニュージーランドの代表的なブランドのデザインを手がけるのはマーガリタ(通称マーギー)・ロバートソン。ダニーデンに本拠地を置く彼女は、年に5〜6回オークランドを訪れるが、毎回多忙なため、アポイントをとることは容易ではない。オークランドのPRオフィスとの打ち合わせの合間を見て、1時間ほどインタビューに応じてくれた。

ショートヘアのボーイッシュなマーギーは、NomDのコンセプトのandrogynous

(中性的)な雰囲気を持つ、気取らない、素朴な雰囲気の女性だ。世間のファッションデザイナーと言えば、イメージをこり固めた特殊な人種が多い中、ニュージーランドのファッションデザイナーは誰もがナチュラル。気さくで「普通」っぽい人が多い。マーギーも決して例外ではない。

黒いアシンメトリーのシャツ、黒のジーンズにブーツ姿のマーギー。「黒、ユニセックス、ストリート、実用性、ヴィンテージ、アングラな雰囲気な

どはNomDの特徴です。大衆向けのブランドではなく、どこか暗さとカルトっぽい要素を常に秘めていたのです」

1952年に難民としてギリシャからニュージーランドへ移民してきたマーギーの家族が最初に暮らしたオタゴ地方に彼女は今でも暮らしている。母親はお針子として働き、6人の子供たちを育てた。マーギーはその真ん中。姉がNZを代表するブランド、Zambesiのエリザベス・フィンドレーだということは誰もが知っている。

「ダニーデンの良いところは、プレッシャーを感じずに、デザイン活動できることでしょうか。古い大学町であり、音楽や美術学校も有名です。虚栄などが存在しないライフスタイルが心地よいです」

デビュー当初は姉

がデザインするザンベシの洋服に合う、ニットを専門に展開していたNomD。99年からは布帛を含むフルラインアップのコレクション制作を開始した。

今シーズンからニューヨーク・コレクションへの参加を開始したNomD。NZブランドの中でも、北半球での展開に積極的なデザイナーの一人だ。昨年10月にNZで発表したコレクションを、スタイリングを変えて、今年2月のNYコレクションで発表した。NYの舞台では、黒を中心に構成、鮮



WEEKEND

今回の特徴は太いストライプのニット。
セーター \$370
パンツ \$235

WORK

一見ベーシックに見えるチャコールグレーのコートも、ベルトが2本上下についているところがNomDらしさ。
ミニドレス \$250
コート \$475
スカーフ \$100

WEEKEND

今シーズンのスローガン「Don't Shoot」のフード付きスウェットはマストアイテム！袖のリブニットが特徴です。
スウェットシャツ \$250
スカート \$195

CASUAL

リブニットのレギングとセーターはリラックスに最適。
ジャケット \$350
セーター \$370
レギング \$260

DINNER

ユニセックスのイメージのNomDでも、ミニドレスが豊富。
パンツの上に着てもOK。
ミニドレス \$260
スカーフ \$100

WORK

シンプルなニットとパンツもNomDのアクセサリー使用で自由自在。
パンツ \$350
セーター \$260
ネックピース \$100
サスペンダー \$125
バッジ \$7

CASUAL

NomDのプリントTシャツはぜひとも日本に持ち帰りたい一品。
着こなせます。
Tシャツ \$85
ジーンズ \$280



やかなオレンジが黒い服のオンパレードにアクセントとして使われた。NZでは大御所で、ファッションウィークのホットチケットであるNomDも、NYでは無名の新人扱い。そのギャップに気を悪くすることもなく、かえってアノニミティ(無名度)を楽しんだと言う。それでも、コレクションには200人近い観客が詰めかけ、メディアにも高く評価された。今後

ホールやイーディ・セジウィック、映画「チャオ・マンハッタン」からインスピレーションを受けたというコレクション。「その時代の中性的、個性的、メッセージ性のあるバッジ、自由さ、などNomDと共通する要素がたくさんあると感じたのです」アノラックやダッフルコートには鹿狩りのオレンジを効かせ、Tシャツやフードなどカジュアルなアイテムで構成されて

います。

ダニーデンをベースに、NomDは世界に発信している。ロンドンにはエージェントを持ち、NYでコレクションを行う。マーギーも、年に2回の海外出張の度、5週間ふるさとを離れる。

「私にとって一番嬉しいのは、世界のカッコイイ人々にNomDを着てもらうことです」と話す。



宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ル・ロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクションを取材。雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・真人君。02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動を続けている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」「おしゃれのエッセンス 旅コレクション」(母・大内順子と共著)等。NZでの生活のエッセイが載っているホームページはwww.ouchi-junko.com